

活動報告

アジアにおける臨床心理学の今までとこれから

活動日: 2026 年 7 月 2 日 | 形式: オンラインでの研究交流・検討

作成者: 望月 宇

概要

2026 年 7 月 2 日、「アジアにおける臨床心理学の今までとこれから」をテーマに、アジア各地域における臨床心理学の発展過程、社会的背景、制度的課題について検討した。特に、中国およびモンゴルの資料をもとに、臨床心理学が各国の文化、教育、医療、福祉、地域社会の要請とどのように結びつきながら形成されてきたのかを確認した。

議論では、中国・モンゴルに加え、インドおよび韓国の動向にも話題が及び、アジアにおける臨床心理学を単なる国別比較ではなく、社会変動、専門職養成、メンタルヘルス政策、文化的実践の交差から捉える必要性が共有された。

主な内容

中国の事例: 改革開放以降の心理学の再建、心理相談・心理健康サービスの急速な社会実装、資格制度の変遷、学校・地域・職場への支援体制、オンライン相談や AI を含むデジタルメンタルヘルスの発展が確認された。また、道家認知療法、本土化された CBT、家族療法の文化的適応など、欧米由来の理論・技法を中国社会の関係性や家族観に即して再構成する動きが重要な論点となった。

モンゴルの事例: 臨床心理学が独立した専門制度として成熟しているというより、児童青年期メンタルヘルス、学校心理支援、精神保健、家族支援、支援者支援などに分散して臨床心理学的課題が現れていることが確認された。教育・学校臨床を入口として、医療・福祉・産業・司法領域へ心理支援ニーズが広がりにつつある点が特徴として整理された。

インド・韓国への展開: 当日の議論では、インドと韓国の臨床心理学・心理支援の動向にも触れ、専門職制度、文化的背景、地域社会への実装、若者のメンタルヘルス支援などをめぐって、今後さらに比較検討を深める必要性が示された。

今後に向けて

本活動を通して、アジアにおける臨床心理学は、各国の社会課題に応答しながら多様な形で発展していることが明らかになった。今後は、中国、モンゴル、インド、韓国などの事例を継続的に整理し、文化・制度・実践の相互関係を比較することで、比較臨床心理学の視点から国際的な学術交流と共同研究の基盤を形成していく。

※本報告は、7 月 2 日の研究交流・検討内容をホームページ掲載用に要約したものである。